

近世の資料

⑤龍正院の鬼瓦

旧下総町の利根川沿いの地域は、利根川が運んできた土や内水の中で静かに沈んだ土を利用して瓦作りが盛んに行われていました。この鬼瓦は宝永6(1709)年、江戸浅草今戸町の瓦師・伊左衛門と、細工師・鬼板屋七兵衛により製作されたものです。装飾瓦に属し、龍正院境内にあった常念仏堂のものといわれています。



近代の資料

⑥銚子犬吠埼燈台のレンガ

資料館の入口の外には、明治7(1874)年に完成した、銚子犬吠埼燈台に使用されたレンガが置かれています。これは、レンガ作りに適した、利根川河川敷内(当時の高岡村)の土で製造されたものです。犬吠埼燈台第一吏員退息所(官舎)に使われていました。



民家部屋復元

⑦昭和時代の生活用品

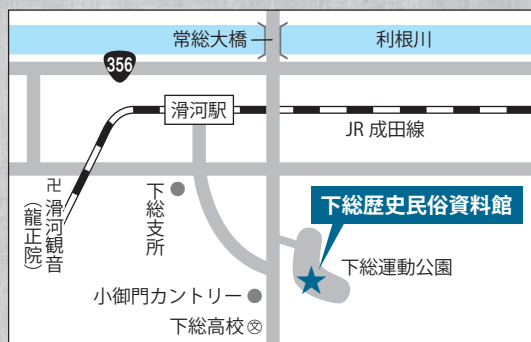
下総地区の民家で実際に使われていた生活用品、漁具、農具などが展示されていて、昭和時代の暮らしを知ることができます。中には、香時計などの貴重な資料もあります。



玉作工房跡復元

⑧玉作工房跡の復元模型

大和田の玉作遺跡(現在の高岡小周辺)では、祭祀用の玉類(管玉など)の製作が盛んに行われていました。この資料館では、復元された玉作工房跡や玉の製作工程などが分かりやすく展示されています。

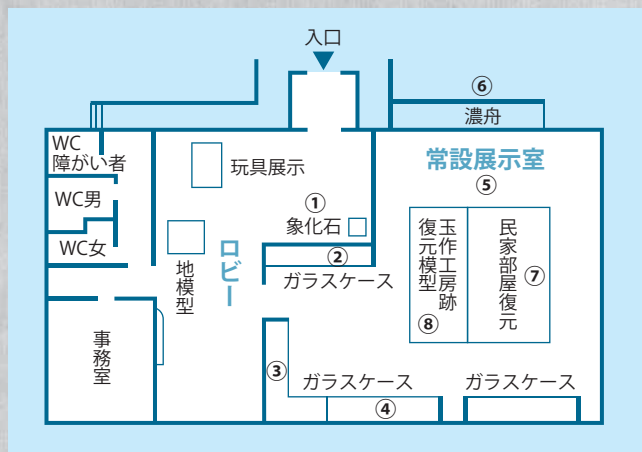


利用案内

開館時間＝午前9時
～午後4時30分
入館料＝無料
休館日＝月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日、年末年始)
※くわしくは同館(☎96-0080)へ。

郷土の“むかし”を探検しよう

下総歴史民俗資料館は、旧下総町の町制施行40周年を記念し平成7(1995)年に、下総運動公園内に建設されました。館内には下総地区で出土した考古資料や、民俗資料などを中心に約400点が展示されています。この資料館では、古墳から出土した副葬品や古代の玉作りの復元家屋などを通して歴史を学び、昔の農具や漁具、玩具などから、人々の生活の様子を知ることができます。皆さんも郷土の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。



古代の資料

①ナウマン象の頭骨化石(レプリカ)

資料館の中に入るとわたしたちを出迎えてくれるのが、ナウマン象の頭骨化石。この頭骨化石は昭和46(1971)年、旧下総町猿山で発掘されました。後の調査から、象の大きさは、全長4.3メートル、高さ2.4メートルと分かりました。



②南羽鳥中岫1遺跡土坑出土品(国指定重要文化財)の人頭形土製品(レプリカ)

南羽鳥中岫1遺跡から出土した、副葬品と推測される遺物が一括して、国指定重要文化財に指定されています。中でも、人頭形土製品は、人間の頭部が精巧に再現されており、写実的な造形・形態がほかに類を見ない特徴的な資料として注目されています。



③猫作・栗山古墳群第16号墳副葬品(県指定文化財)

この古墳には、埋葬施設があり、石製模造品類が多く出土しました。石材を加工して作られた、被葬者の枕である石枕(写真中央)は、通常は1つの埋葬施設に1個入れられるものですが、この古墳には3個の石枕が納められています。複数の石枕が副葬される例は珍しく、貴重な資料です。



④南羽鳥正福寺遺跡第1地点1号墳出土埴輪(市指定文化財)

この遺跡は、平成元(1989)年に発掘調査が実施され、墳丘の周辺から、埴輪が大量に発見されました。埴輪の種類は動物や人物など豊富。中でも、ムササビ形埴輪(写真右端)は、全国的にも類例がなく大変貴重です。また、写真中央の魚形埴輪は、その形状から、ボラであると推測されています。

